

園だより 10月

おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

エフェソの信徒への手紙 4章 16節

残暑を感じながらも秋風が吹き始めた9月、保護者の方々のご理解と、保育者たちの子どもたちへの思い、リーダーたちの協力により、今年度のお楽しみ保育「魔女の森」へ年長の子どもたちは出かけ、豊かな二泊三日を楽しみ過ごすことが出来ました。幼児期の今だからこそ楽しめるファンタジーの世界、例年と変わらずに年長の子どもたちに楽しむとかが与えられましたこと感謝でした。

8月の夏期保育が終わり、予定通りに始められた二学期。まだまだ続くコロナ禍の日々ですが、登園してくる子どもたちは安心できる環境にゆっくりと身を委ね、思い思いに遊びを展開しています。毎日通園する園生活のリズムが普通となり、年少組の保育時間も延び、継続的な遊びの展開がなされるようになったこの時期、それぞれの学年らしい子どもたち同士の関わり合いの広がり、そこで見られたひと月となりました。様々に関わり合い、思いを表現するようになると当然ぶつかり合いが増えます。

この幼児期に見られる子ども同士のぶつかり合いのとき、まだまだ自己中心的な子どもたちが相手の様々な思いや考えに気づき、それに加え溢れんばかりの自分の思いも心に留め、心を動かすとき、それは江東YMCA幼稚園の保育テーマの一つ「他人を認め、受け入れることのできる人になってほしい—自分との違いを認め、受け入れる心を育みます。神様からそれぞれ違った賜物を授かって私たちは生かされているのです」の育みのときであるのです。ですから保育者たちは注意深く見守り寄り添います。子どもたちの貴重な経験のとき、様々な思いの育みのときを大切に思いながら。そのように日々の園生活が繰り返される中で、子どもたちの心と体は休むことなくゆっくりと育っていくのです。

10月も細心の心配りをしながら環境を整え、今、子どもたちにとって「大切な育み」が成されるために、子どもたちと向き合い、寄り添い、見守り過ぎて参りたいと願います。保護者の皆さまも共に思いを重ねて頂きますことお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子

